1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590600213		
法人名	社会福祉法人 暁会		
事業所名	グループホームあかつき防府		
所在地	防府市大字江泊1790番地		
自己評価作成日	平成30年11月30日	評価結果市町受理日	令和 1年 8月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共同生活の中で、一人一人の状態を考察し、役割を持ってもらい、じっとしていることによる不安・苦痛を察することで日々の生活に生きがいを感じていただけることをテーマに支援を心掛けている。特に外出することを日常とし、積極的に地域社会とのかかわりを持つ努力をしている。観光地やイベントへの参加だけでなく、日常生活のスーパーでの買い物 入院者のお見舞い 理髪店での散髪 庭の草取り 日向ぼっこ 空いた時間のドライブなど身体介護に偏らない 支援という形でのサービスを心掛けている。職員には一人ひとり目標を持って、外部研修 施設内研修の参加以外にもリーダーが指導者として自己研鑽を心掛けており職員一人一人の個性を尊重しながら チームとして成立する心豊かな認知症介護を目指している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、一人ひとりが目標を持って働けるように目標管理シートを活用されて、自らの具体的達成目標を掲げた行動計画の中間評価や最終自己評価に取り組まれています。管理者やユニットリーダーは、これを基に年2回、職員個別の相談に応じられて働きやすい環境を整えておられます。従来の管理者主導の体制から、現場が主体的にケアに取り組んでいけるよう、今年度から職員が委員長、副委員長を務める「身体拘束廃止委員会」を設立され、自発的な事例検討や内部研修を開催しておられます。利用者の楽しみとして外出の機会を多くつくっておられ、季節に応じた花見の他、職員がインターネット等で調べた地域情報を基に、動物園や天満宮、ゆめ花博、温泉の足湯、サーカスなどに出かけられたり、利用者が生まれた場所を探し出して、長年希望されていた訪問や親せきとの触れ合いを実現されるなど、職員の主体的な意見や提案から、利用者の安心な生活や喜びをつくりだしておられます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成30年12月18日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常業務の遂行の中でつい忘れてしまいがちな理念を喚起するために、GH入口の目立つ場所に掲示している。職員は記録や日常業務に追われるのではなく、常に寄り添う気持ちを大切に、何事も一緒に行動するように心がけている。特に職員間の信頼関係は大切に、認知症介護において理念を遂行する上で最も重要な位置づけとしている。チームの結束がそのままより良い介護につながることで日々理念の追及に向かって努力を続けている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事業所内に掲示している。職員は、日々のケアにおいて利用者に寄り添う気持ちを大切にして、利用者と共に行動するように心がけ、目標管理シートを活用して、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の会員として地域行事(夏祭り・文化祭)や清掃活動(地域・小学校)・避難訓練には毎回参加している。また、事業所として毎年実施している夏祭りには地域の皆さんを招待し 屋台や花火 小学生 中学生 高校生のクラブ活動の発表の場として提供している。日常的な交流としてはスーパー ホームセンターでの入居者様の買い物や 地域の幼稚園の訪問なども実施したが頻度としてはまだ少ない。唯一 広い敷地をグランドゴルフの場所として提供しており 高齢者との触れ合いの場として活用している。	自治会に加入し、法人役員が総会に出席している。職員は、地域の清掃作業や防災避難訓練の炊き出しに参加している。利用者は、公民館主催の夏祭りや文化祭(作品の展示)に参加し、地域の人と交流している。拠点施設主催の夏祭りには地域住民300人程(小中高校生のクラブ活動の発表の場として提供)の参加があり、利用者や家族を交えて交流している。中学生の体験学習や小学生の福祉学習の受け入れ、地元幼稚園児の来訪等でふれあい交流を行っている。利用者は、拠点施設で行っている行事(ギターの弾き語り・日本舞踊鑑賞等)への参加時、スーパーやホームセンターでの買い物時、法人敷地内にあるグランドゴルフ場に来る人と挨拶を交わしているなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解のための活動としてはいまだ積極的に実施することはできていないが、地域行事には必ず参加すること また学校の職場体験や触れ合い実習の場面で認知症について話をする機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価の及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の報告書と評価項目の事前閲覧を職員全員に閲覧している。また、指摘事項および施設での特色を理解してもらうためにユニット会議の席上で説明することになっている。	自己評価は、評価のための書類を事前に職員に回覧し、管理者が素案を作成した後、各項目ごとに職員から意見を聞いてまとめている。作成した自己評価は職員に回覧し共有している。前回の外部評価結果を基に目標達成計画を作成し、改善に取り組んでいるが、全職員が評価の意義を理解し、活用しているとは言えない。	・全職員での評価の意義の理解と活用
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回指摘の単独での運営推進会議の開催はいまだ出来ていない。開催に向けてお寺の住職や自治会の役員に趣旨説明までは行っているので早期に実施開催をすべく調整を行っている。	会議は拠点施設と合同で2ヶ月に1回開催し、利用者の状況や行事予定、行事報告、ヒヤリハット・事故報告、外部評価への取組状況を説明し、意見交換している。家族への参加は呼びかけていない。会議では事業所への意見が少なく、具体的なサービス向上につながっているとは言えない。	・運営推進会議を活かした取り組み
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	GH連絡協議会や集団指導などの場には必ず参加している。また水害避難訓練実施の際は市としての意見などを聞き緊急時の避難活動の参考になっている。	市の担当者とは、書類提出時に直接出向いて相談して助言を得たり、情報交換しているなど、協力関係を築いている。市主催のグループホーム連絡協議会に参加している。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話で事例の相談や情報交換を行っているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の取り組みの中で本年より新しく現場主体の組織変更を行った。従来は管理者主導であったものから現場の介護職員を委員長 副委員長に指名し自発的な勉強し、より現場の支援に生かすことのできる組織としてスタートさせ、具体的な事例現場に即した身体拘束廃止の活動の場としている。	今年度、職員が主体的に運営する「身体拘束廃止委員会」を設置し、年2回、ユニット会議で研修や事例検討を行って、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、気になるところがあれば管理者やユニットリーダーが指導している。日中は玄関の施錠はしておらず、外出したい利用者には、個別にドライブや散歩に出かけたりしている他、拠点施設職員と連携して見守りしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止のための委員会発足と同時に虐待防止の活動にも取り組んでいる。新卒の職員が初任者研修で学んできたストレスマネジメントの資料を参考にして職員全員に閲覧という形で勉強した。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年は成年後見人の対象となる方がおり、具体的に勉強となる事例が発生し、職員で共有することができた。また、家族による利用料未払いの事例もあり、制度的にいかん支援したらよいか また、経済的虐待という面からも実際の事例として勉強し、その対応を組織として取り組むことができた。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には充分時間を取りご家族の意向を確認するとともに、重要事項の説明をご理解いただけるよう配慮している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今期ご家族様の不満 ご心配という形で事例が発生し、職員間でその対応 ご本人のご意向 ご家族のご意向を再考することができた。普段の様子をしっかりと伝えられていなかったことが原因でより継続的な寄り添う姿勢を写真などで報告し、ご家族に信頼していただけるようになったことは普段の支援の姿勢に大いに役立ったと考えている。今後もしっかりとご家族の思いを把握することにより入居者に反映できる姿勢を堅持していきたい。	契約時に苦情や相談の受付体制や第三者委員の紹介、処理手続きを家族に説明している。意見箱を設置している。家族の面会時や電話、メール等で、家族から意見や要望などを聞いている。家族の意見を受けてユニット会議で検討し、利用者の日常の様子を定期的に写真で家族に伝えるよう改善を図っているなど、意見を運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員はそれぞれ担当の入居者を持ちそれぞれの発想で寄り添うことを心掛けている。趣味 外出 日常の役割 など無理なくできることを提供することの大切さを実感していると考えている。特にユニット会議ではおひとりおひとりの状態を報告しながら他の職員の意見も参考にしながら 日々の寄り添いの手段として支援の具現化に努めている。	月1回のユニット会議や申し送り時に職員からの意見や提案を聞いている他、管理者やユニットリーダーは職員の目標管理シートを基に、年2回個別の相談に応じている。職員からは設備関係(掃除機や洗濯機の整備、交換)や退院した利用者のケアの工夫などの提案があり、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現状のスタッフの中で自宅でも介護に携わっているものが5名 育児に携わっているものが2名いるためその状況をスタッフ全員が理解することで 協力する姿勢が出来ていると考える。職場でのストレス 家庭でのストレスを職場全体で理解することが 結果的に入居者に対するより良いサービスにつながることを職員全体で理解するよう努力している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今期意欲的に外部研修に参加することができた。法人からの援助もあり 初任者研修に3名 実践者研修に1名 リーダー研修に1名 そのほかにも自分で興味ある研修会に参加することができ さらにそれを他の職員に波及する研修会を行い全体のレベルアップにつながったと考える。また、個人の目標管理シートを作成し、年度の目標を明確にすることで自己啓発につながっている。ただしこの手法は本年が最初であることで まだ未完成で自己の目標の設定に課題がある。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を設け、参加者は研修報告書を提出して、ユニット会議で伝達講習を行っている。法人研修は、年1回、トータルクオリティマネジメント研修を行い、拠点施設研修として月1回、感染予防、普通救命、急変時の対応、褥瘡予防、電解水について等の内容で行って、希望する職員(ユニットから1名)が参加している。内部研修は、ユニット会議の中で、BPSDについて、脱水を防ぐ、災害時の対応、排泄ケアについて、ストレスマネジメント、認知症の方の接し方、身体拘束防止について行っているが、職員一人ひとりの受講状況としては充分とはいえない。新人は初任者研修に参加し、先輩職員が日常業務の中で指導している。	・計画的な研修の充実と工夫
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会には計画作成担当者をメインにネットワークづくりに努力している。自己の施設だけでは限界のある運営方法、支援のアイデアも 他の施設の職員との交流によってたくさんの気づきが得られている。今期は11月他事業所の弁論大会に8名が参加した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本入所を断らないことにしていることで、いかに入居者本人を職員が理解できるかが良質なサービスの提供につながると考えている。その為入居者に慣れていただくのではなく、私たち職員がいかに入居者の不安感の払拭がいち早くでき 施設としての個別のサービスにつなげられると考えている。計画作成担当者が職員それぞれの意見を集約するように心がけている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族は施設に入れることで安堵され、直接施設の支援に対しての意見をおっしゃることは少ない。しかしながら、実際はこうしてほしいという欲求は強く、時間が経過するにつれてさらに強くなることは明白である。言われたい 感謝されることに看過していることはたくさんあるという認識を常に持ち続けていく覚悟を持ち続けていくことにしている。今期本音で 当施設の対応について 苦言をいただいた事例もあり 今後も謙虚に要望を聞く姿勢と仕組みを継続していきたい。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の聞き取りを家族の意向 CMの意見ご本人との面談を行い 入居判定会議を行うようにしている。当施設の現状の支援をまず家族に説明しながら 日常生活が適合できるか否か また自施設での対応ができるか否かを検討することになっている。体力の維持に対する要望が特に多く、特養のOTに協力をもらいながら 支援の手段としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者には常に共同スペースで過ごしていただくよう配慮している。その際 何かしら作業 役割 手作業 会話の生まれる環境を作ることを心掛けている。また、家事への参加として洗濯物たたみ、掃除、草取り、畑仕事などを一緒にするようにしている。		
		職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が遠方に居住されていたり、仕事などの都合で、面会できる頻度には差があるが、面会時間に制限をなくし いつでも話ができるようにしている。また、今季一時帰宅の機会を定期的実施されているご家族が3名よりご家族の話聞く機会が増え、その際必ず職員が支援経過や写真を活用して近況を報告し、ご家族にも協力していただける支援を一緒に考えるようにしている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	比較的友人 知人の訪問は少なくなってきた。待っている体制から出かけていくようにしている。ご家族にお願いしてご自宅で何泊か過ごしていただいたり、生まれ故郷でのご自宅探索、外出時には昔なじみのある場所 お店に行ったりしている。また、調髪は市内の理髪店 なじみの美容室を利用することになっている。	家族の面会や親戚の人、友人、知人、近所の人の来訪があるほか、年賀状での交流や電話の取次ぎの支援をしている。ドライブで利用者の自宅近辺や馴染みの店に出かける、馴染みの理美容店を利用する、個別に利用者の生まれた場所(仙崎)に行くなど、馴染みの場所や人との触れ合いができるよう支援している。家族の協力を得ての墓参りや通夜参り、買い物、外食、自宅外泊に出かけるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	従来は入居者同士の相性で席を配置していたが、現在は、極力みんなが顔が見える距離にいられるように配慮している。当然 入居者同士のトラブルもあるが、そこに職員を配置することでよい関係が保てるように配慮している。その為 入居者同士での支援の様子がうかがえたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後も入院先や入所先に赴き面会をするようにしている。特に入所していたころのお写真であるとか寄せ書きなどを持参しご家族とも関係を維持するとともに相談があれば対応するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	支援経過に毎月担当職員がモニタリングとして評価を実施している。計画作成担当者はその内容をチェックし、介護計画の修正に役立てている。またユニット会議の席上では毎回個人別に 現状の問題点や支援計画 アイデアの聞き取りを行うことにより、日常の支援に役立てている。	入居時に本人や家族から生活歴や好み、意向や要望の情報を得てフェイスシートやアセスメントシートに記録している。日々のかかわりの中でのりゆおしゃの発した言葉や行動を「介護支援経過表」に記録している他、利用者の健康状態、生活上の問題点や解決すべき課題をケアチェック表に記載し、月1回、利用者を担当している職員が利用者の状態を評価すると共に、本人の思いを記載して、職員間で、思いや意向を共有するよう努めているが、十分とはいえない。	・思いや意向の把握の工夫
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	溢れ出すように昔話が始まる またその話に加わる。そんなキーワードを共有するようにし、どの職員もツボを把握し、また新しい発見を日常業務の中で伝え合うようにしている。ご家族がいらつした時は、新しい発見をお伝えするとともに 生活歴をお聞きし、さらに入居者が共感する話題の発掘に努めるようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の支援経過にその人の心情観察なども加えることで常に安心して過ごせる状態を模索し、職員全員で情報の共有を意識するように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的には1か月ごとに支援経過表を総括し、評価 まとめを記入している。さらに3か月 半年でモニタリングを実施し ユニット会議の席上で計画作成担当者が意見などの取りまとめを行っている。介護計画書の更新時にはご家族に対し説明を行い、遠方のご家族には書面を郵送で送るほか電話などでご意向の確認なども行っている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に、毎月1回ケアカンファレンスを開催し、利用者の状態を評価して、本人や家族の思いや要望、主治医や看護師、栄養士、作業療法士、職員の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6か月毎に見直している他、利用者の状況の変化に応じてその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員同士の日常業務での情報交換が大切と考えているが、支援経過記録や申し送りノートでの確認 情報の共有もあわせて活用している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の事業所の活動情報を参考にし、新しいことに挑戦する姿勢を常に持ち続けるよう心掛けている。特に本年は特養で開催している体操教室に毎回参加し入居者には日課として定着している。他事業所での音楽会などのイベントにも極力参加させてもらい 日常生活での楽しみの提供につなげている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れた地域での生活を実践するために、住んでいた場所 天満宮や三田尻港駅周辺 銀座アーケード商店街などの記憶に残る施設 また買い物することで生活の行動などを喚起できるよう外出を常に日常生活の中に取り入れていくようにしている。特にすべてにおいて季節感を感じていただけるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週月曜日嘱託医の杉山医院による往診をしてもらっている。当日事前に個人のバイタル表と相談事項を記入し、往診の際医師の助言をもらうようにしている。また従来からのかかりつけ医の受診を希望されているご家族には 職員が付き添い適切な健康状態の報告と医師への相談の技術を磨くように心がけている。	本人や家族が希望する医療機関をかかりつけ医とし、事業所の協力医療機関をかかりつけとする利用者には週1度の往診がある。協力医療機関以外の受診は、家族の協力を得て支援している。受診結果は支援経過や申し送りノート、情報提供書などに記録し、回覧して職員間で情報を共有し、必要に応じて電話やメールで家族に連絡している。緊急時や夜間は、管理者に連絡し、場合によっては拠点施設の夜勤職員や看護師の協力を得るなど、適切な医療が得られるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設は看護師が不在であるため介護職員がその業務をできる範囲で代行している。バイタルチェック様子観察による健康状態の把握 服薬管理 受診対応 医師への連絡 報告などを行っている。また 併設の特養の看護師に相談して入居者の健康管理に役立てている。状態によってはご家族と連携を取りながら専門医への受診も行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	嘱託医 かかりつけ医には定期受診で相談することはもちろん 入院の際はご家族の都合も加味しながら援助するようにしている。家族の対応が困難な場合も施設側が洗濯物やおむつなどの対応も行い 早期退院に向けて協力することとしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時 終末期における家族のご意向を聞くようにしている。ただし、看護師不在のため 食事の経口摂取が出来なくなったときは 過去の扱いとなることを説明している。入院後3か月はお部屋を確保することとしており 退院後の施設での生活の再開には最大限協力することとしている。	契約時に、重度化した場合に事業所でできる対応について、移設を含めて家族に説明している。実際に重度化した場合には、早い段階から本人や家族の意向を聞いてかかりつけ医と相談し、職員間で話し合っ方針を決めて共有し、支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	行動制限をしない反面 転倒事故の危険は常にあり 本年は骨折 打撲事故が3件発生している。未然にリスクについては普段から職員間で対応を話し合い、ユニット会議 嘱託医の往診の際には協議 相談をしている。その他事故の際は報告書を作成し 対策対応を記入して実行するようにしている。ユニット研修 および施設での研修では看護師による応急対応の研修を受けており緊急対応の訓練も実施している。	事例が生じた場合は、その日の出勤者で話し合い、事故報告書に記録して、管理者に報告し、他の職員に回覧している。月1回のユニット会議で再度検討し、介護計画に反映させて再発防止に取り組んでいる。事故発生への対応については、拠点施設内の研修(普通救命、緊急時の対応、感染症対策、食中毒について等)に参加して学んでいるが、全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとはいえない。	・全職員での応急手当や初期対応の定期的訓練の実施	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	本年は火災避難訓練を2回 水害避難訓練を実施している。特に水害避難訓練では近隣の小学校講堂まで避難するとの想定も元誘導から車を使った搬送まで実施し その対応の困難さを実感することができた。結果的には職員も入居者も同じ場所に集合して次の行動に移ることが避難には欠かせないということで職員全体に周知することができた	年2回、消防署の協力を得て、拠点施設合同で昼夜の火災を想定した消火、通報、避難訓練、避難経路の確認を利用者も参加して実施している。年1回、地域の人も参加して水害時の避難訓練を実施している。拠点施設を福祉避難所としており、災害時に対する備蓄をし、職員は地域の防災避難訓練や炊き出し訓練に参加しているが、地域との連絡網はなく、地域との協力体制が十分とはいえない。	・地域の協力体制の構築	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいの点では、まだまだ充分出来ているとは言えない。危険回避 のためと言いながらつい強い口調になってしまうことがある。ただし ユニット研修でもこの問題を取り上げたり、3名参加した初任者研修の内容を既存の職員に披露することによって 従来よりは意識するようになったと考えている。また支援のストレスを 職員全員で理解するとともに極力冷静で業務に当たれる環境作りを心掛けるようにしている。	初任者研修に参加した職員が、ユニット会議の中で復命研修を行い、人格の尊重とプライバシーの確保について学んでいる。職員は利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。接遇や言葉づかいなど、不適切な対応があれば、管理者が日常的に注意や指導をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から入居者が望んでいることを常に推測するように心がけている。その実現のためにご家族に協力してもらったりしてご兄弟との面談なども実現している。また日常生活の中でスーパーでのお買い物 喫茶店 外食では提案しながらも自分で選んでもらったり 代金の受け渡しも できる人にはレジに並んでいただいたりしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設としては食事の時間をはじめとして、日常の生活はほぼ時間が決まっている。ただ強制するのではなく 誘導 案内する姿勢は崩さないようにしている。誘導の技術を磨くことで業務もスムーズに出来るのだが、難しいときはその人のペースに合わせ、無理強いほしないというルールにしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一応職員がその日の気候に合わせて準備するが、選択できるよう配慮している。また外出時の服装はそのままではなく その日の気分に合わせ選んでいただいている。定期的に女性にはマニキュアを塗ったりすることもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の嗜好調査は入所時の行っているが、みんなで一緒に食事をするという習慣作りを定着させている。食事は給食施設から毎回届けていただいている。出来る方には配膳などのお手伝いをいただいている。基本ご自分の好みの食器で食事をとっていただき、食器の片付け 洗浄にも加わっていただいている。また、手出し無用の食事作りではお買い物から 調理 盛り付けまで入居者さんにカレーを作っていた。また、手出し無用の食事作りではお買い物から 調理 盛り付けまで入居者さんにカレーを作っていた。	三食とも拠点施設からの配食を利用し、ご飯は事業所で炊いている。入居時に嗜好調査を行っている。利用者は盛りつけ、テーブル拭き、お盆拭き、下膳、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。季節に応じた行事食(月2回、季節感を大切にしたお膳等)やおやつづくり(ホットケーキ、チーズケーキ、畑で収穫した芋でつくった蒸かし芋や焼き芋、梅ジュース、キンカンを煮る)、利用者だけのカレーづくり、収穫したスイカでのスイカ割、そうめん流し、柿もぎ、クリスマスケーキ、外食(ファミリーレストラン、喫茶店)、お寿司を買ってきて食べる、家族の協力を得ての外食など、食べることが楽しみなものになるよう工夫して支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は栄養士が作成しており、食事摂取 水分摂取の記録などは職員が行っている。体調不良や接種状態により食事形態の変更食器の変更なども行っており 都度状況に合わせた対応が出来ている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き 夜間の入れ歯洗浄は実施しており 航空の状態もチェックするようにしている。協力歯科医の山野医院にも受診したり 関係機関の研修にも参加し 口腔ケアの勉強もしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中 夜間と入居者に合わせたトイレ誘導を実施しておりトイレでの自力排泄を心掛けている。	排泄チェック表を活用してパターンを把握し、時間を見図りながら、利用者一人ひとりに応じた声かけや誘導をしている。職員は内部研修で学んだことを活かして利用者の姿勢保持の工夫をするなどして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	年度の自己目標で排泄を課題に挙げている職員を中心に個々の介助 および便秘予防に役立っている。排尿 便秘の薬を服用している入居者も多く記録 および状態観察で医師と相談しながら服薬の調整も行っている。また 運動が大切という認識から 毎日テレビ体操 平日は体操教室へも参加している。食事については栄養士の考えた繊維質の多い食材になっているので 職員は水分摂取が十分取れているかのチェックはできている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の希望に合わせた入浴をすることになっているが、現在は日中の入浴で入居者が受け入れてくれている。また 入浴しているにもかかわらず入れてもらっていないという入居者にはその都度入浴を実施したりして対応するようにしている。花水木ユニットでは主に午前中 花梨ユニットでは午後の時間を入浴時間としている。また入居者の状態によっては花梨が花水木の一般浴槽を使用することも対応として実施している。	入浴は毎日、9時から20時までの間可能で、週2回入浴できるように支援している。利用者の状態により特殊浴槽の利用やシャワー浴、部分浴、清拭、足浴などの支援を行っている。季節のゆず湯や菖蒲湯、入浴剤の使用、職員との会話、歌を歌うなど入浴を楽しめるよう工夫している。入浴したくない利用者には無理強いをせず、時間をずらしたり、職員の交代、声かけの工夫などをして支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	少しでも安眠が得られるようにと日中の活動を重要視している。一人ひとりのペースも大切にしながら夜の入床については一律にはしていない。ベットメイクも毎日実施しており清潔 整頓を心掛けている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診 受診介助の際薬も合わせて施設職員が気づかっており、管理 服薬介助も実施している。薬情も一括してファイリングしており都度確認するようにしている。変更があった場合などには 注意点など 副作用など注意点を申し送りで伝達することになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割の大切さの実践として、食事の盛り付け洗い物 お盆拭き 掃除 手すり拭き ゴミだし ゴミ箱づくり 食卓拭き 洗濯物たたみ 花の水やり 草抜き 畑の草取りなどを日常の共同生活の役割として実践していただいている。また、イベントとして入居者だけで食事作りや おやつ作りも企画し お買い物から 盛り付け 配膳までしていただく企画も行っている。楽しみの援助としてはDVDを活用し 懐かしの歌番組などを音と映像で常に視聴できるようにしてその中で 裁縫や編み物 貼り絵工作 パズル ゲームなどを楽しめるように心がけている。季節感も大切にしようという試みの中では、地域の行事への参加 演奏 演芸ボランティアとの交流も積極的に行っている。	季節の行事(ひな祭り、敬老会、クリスマスなど)や誕生会、ボランティアや来訪者との交流、テレビ(歌番組、お笑い)やラジオの視聴、CDを借りて音楽を聴く、歌を歌う、本や新聞、雑誌を読む、貼り絵、ぬり絵、編み物、手縫い裁縫、脳トレ、パズル、数字合わせ、間違い探し、風船バレー、体操(ラジオ、テレビ、OTの指導による)、新聞紙のゴミ箱づくり、文化祭に出展するための紙箱や着物を解いての小物入れづくり、畑仕事、草取り、水やり、おやつづくり、食事の準備や片付け、洗濯物干し、洗濯物たたみ、ゴミ捨て、自室の掃除など、利用者一人ひとりのしたいことや好きなことをみつけ、日々の生活の張り合いや気分転換となるような楽しみごとづくりを行っている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は常に心がけており 日常生活の一部としてとらえ積極的に行っている。単なるドライブも季節感を味わえる活動としてその中で、買い物 花摘み 入院者のお見舞い 市内の理容店での散髪喫茶店利用などを実施している。楽しみとしては正月の初もうでから始まり、観梅 花見 花菖蒲紫陽花 ひまわり畑 花博 紅葉 足湯など連日実施することも多い。	初詣、季節の花見(桜、梅、紫陽花、菖蒲、ひまわり、コスモス、紅葉)、ドライブ(徳山動物園、防府天満宮、維新公園、天徳寺、阿弥陀時、ソレーネ周南、サファリパーク、ゆめ花博、自宅の近辺等)、生まれ故郷、湯野温泉の足湯、サーカス、外食、公民館主催の夏祭りや文化祭、近隣への散歩や買い物、馴染みの理美容店の利用、家族の協力を得ての墓参りや通夜参り、買い物、外食、自宅外泊など日常的に外出の機会をつくって戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりの預り金を活用し、お買い物の喫茶店利用の際は可能な限りご自分でのお支払いをしていただくように心がけている。個別対応が困難な場合は職員がまとめて支払いをすることになるが、めにゅうの選択はご自分でしていただくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在家族と電話で連絡を取り合っている入居者は1名 個人の携帯電話を使っているが他の入居者の電話連絡の要請はない。手紙については年賀状のやり取りを勧め 直筆でできる人には付き添いながら作成している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放感があり、自然を常に体感できる環境の中でさらに季節を意識できる用に飾りつけをするようにしている。また生活の場としての共用の場所は安全で使いやすいように配置や張り紙などを行っている。室温 換気については常に意識し入居者に居心地よく過ごしていただけるように配慮している。	広くて明るく、ゆったりとしているリビングの大きなガラス窓からは、グランドゴルフ場や小学校の校舎、中庭の花壇などが見え、季節を感じられる落ち着いた風景が広がっている。室内は利用者の状況を見ながら、机やいす、ソファの位置を変えるなど、利用者一人ひとりが居心地よく過ごせるよう工夫をしている。壁に飾った大型カレンダーや毎月職員が題材を考えてつくっている季節の飾り物が彩りを添えている。温度や湿度、空気清浄に配慮して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人間関係には特に配慮して、テーブルの配置 席替えなども行っている。特に会話が弾む 相性などの人間関係は一定ではないことから スタッフ会議の際に職員からの意見を反映させている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人 家族のご意向も参考にしながら入居者それぞれが落ち着ける部屋作りをしている。思い出の品を持ち込んだり、逆に極力少なくして混乱を避ける工夫をして、一人一人の部屋作りをしている。	好みの寝具や使い慣れたダンス、衣装ケース、衣装掛け、小物引き出し、テレビ、イス、ソファ、加湿器、本、時計、観葉植物、ぬいぐるみなどを持ち込み、壁には家族や若い頃の写真、カレンダー、風景写真、手ぬぐいタオルの壁飾りなどを飾って、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した共同生活が少しでもできる環境づくりには配慮している。障害物や混乱を招くものは極力視覚外に排除し 一人でもトイレに行ける 自分の部屋に戻ることができる 体操教室まで行けるなど分かりやすい生活環境を作ることを心掛けている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム あかつき防府

作成日: 令和元年7月16日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4 (3)	外部評価結果を基に目標達成計画を作成し改善に取り組んでいるが職員全員が評価の意義を理解し活用できていない。	全職員が外部評価の意義を理解し取り組む。	外部評価時には全職員に意義等を資料を基に説明し自己点検を皆で作成する。	1年間
2	5 (4)	グループホーム独自の運営推進会議ができておらず、また事業所への意見が少なく具体的なサービス向上に繋がっていない。	グループホーム独自の運営推進会議が開催でき第三者の意見を多く取り入れる。	3ヶ月に一度グループホーム独自の運営推進会議を開催し市役所、民生員、ご家族等の第三者の意見を聞き記録に残し運営や日常業務に生かす。	半年間
3	14 (9)	職員を育てる取り組みとして、一人一人の研修受講状況としては不十分。	施設全体の施設内外の研修参加は元より職員一人一人の研修への参加する機会を多く持つ。	毎年認知症実践者、ユニットリーダー研修各1名の参加をする。(対象者居る限り) その他の施設内の研修に参加を各自3回を基本とし参加する。ユニット内研修は常に全員参加。	1年間
4	24 (11)	入居者の思いや意向を職員間で共有する様に努めているが不十分。	入居者の思いや意向が常に職員間で共有できるように工夫しそれを基に支援に努める。	月末のまとめに各担当で入居者の方々の意向を確認し、その意向を別紙としてサービス計画表に常時掲載し職員全員が共有できるようにする。	1年間
5	35 (15)	応急手当や初期対応の研修と定期的に行っておらず実践力に欠ける。	年に1回から2回全職員対象に応急手当や初期対応の研修を実践し若しもの際に備え早期対応ができる。	年に1、2回ユニット内研修にて応急手当、初期対応を施設内研修のAEDとは別に実施し全職員が認識の上に対応できるようにする。	1年間
6	36 (16)	地域との連絡網はなく地域との協力体制の構築ができていない。	災害時等の地域による協力体制の構築	災害時の地域の連絡網を作成し、地域で行われる防災訓練に参加する。防災マニュアルの作成。	1年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。